大阪インターナショナルチャーチ：　　ブルース・アレン牧師

1ヨハネの手紙第一 2.3-14　The New American Standard Bible (NASB1995)注解以外

2024/10/13

説教題: イエスと歩くことは愛の内に歩く事

お早うございますOICの皆さん、そして父の家にようこそ
今日も使徒ヨハネの第一の手紙の続きです。 聖書全体がそうであるように、この手紙も聖霊の霊感を受けたものです。 前回のメッセージ「イエスと共に歩むことは光の中を歩むこと」で、私は輝かしい賛美歌の言葉で締めくくりました： 「ハレルヤ、私の魂が長い間切望していた主を見つけた。 イエスは私の切望を満たし、イエスの血によって私は救われた。」　イエスを信じるOIC信者たちよ、ドロシーと私とともに喜びましょう！　この歌は、光の中でイエスとともに歩む喜びです！　...しかし待ってください。ヨハネが書いているように、ここで私たちが見るような、しかし、世界の人々のためでもあるのですが、この奥義をいかにして私たちは保てるのでしょうか？　私たちの喜びは、聖霊の力であり、制裁であり、律法ではなく愛の重荷であり、イエスが彼らの罪のためにも死んでくださったことを全世界の人々に伝えることです！ やりましょう！
今日、ヨハネは次の節の冒頭で、真のクリスチャンと偽のクリスチャンを強調したり比較したりしています。 ヨハネがこの手紙を、より多くの教会に忍び寄るグノーシス主義の異端からクリスチャンを守ることに重点を置いていることを知れば、このようなアプローチや文体も驚くにはあたりません。 前回のヨハネの手紙第一の一章についてのメッセージで、私は次のように述べました：「グノーシス主義は、社会、特にアジア州で流行しつつありました。　1世紀のグノーシス主義者の基本概念は、物質的なものはすべて悪であり、霊的なものだけが善である。それで、神は善いのです。神は霊だけを持ち、肉体を持っていないからです。 これは、イエスが善であり、人間の肉体を持っていたことを知っていた、これらの若いクリスチャンたちに、幾つかのチャレンジを与えました。
グノーシス派の異端者がどの教会にいようといまいと、ヨハネは彼らや他の偽キリスト者がどのような誤った態度を示すかを示したかったのです。 ヨハネの第一の手紙の中で、ヨハネは、異端の教師を明らかにすると同時に、その人が、その人と神との関係の事実を証明するためのテストを提示しています。

今、使徒ヨハネは、このような詐欺師たちに対して、神の言葉をもって狙いを定めています。この手紙全体は、クリスチャンに、自分たちの中にいるクリスチャンだと名乗る人たちを裁くことを目指しています。私たち牧師や教師たちは、クリスチャンを 「裁くこと」ということで、しば

しば非難されます。 多くの誤りや異端運動は、「裁くことを恐れる 」クリスチャンの間で始まっています。 アメリカのメトロボストンで、ある活気ある教会が同性愛者を指導者兼教師に任命しているのを見ました。 ドロシーと私が友人である教会員に警告しようとすると、彼女は言ました： 「私たちは裁きません！」 それから約 1 年後、その教会は長年所属していた宗派から追放されました。 聖書を権威とする会員たちがこの教会から逃げ出し、多くの涙が流され、多くの心が傷つきました。 その教会は、同性愛は罪であるという聖書の真理を否定し、独自に歩み続けました。

この裁きに対する緊張感を理解するために、いくつか言っておかなければならないことがあります。私は、水曜日の聖書研究の時に、この教えを完全に教える計画を持っています。というのは、健全な教会にとって非常に重要なことだからです。

主は(マタイ 7.1-3) で、罪深い行いをするクリスチャンを裁くことについて警告されました。：

「1 さばいてはいけません。さばかれないためです。2 あなたがたがさばくとおりに、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られるからです。3 また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか。」

イエスが偽善者になりがちな私たちの自然な傾向を指摘したのは明らかです。また、同性愛のような粗暴な性行為が、愛によって祈られるのではなく、むしろ大目に見られることは、兄弟の目にある**ちり**というだけの問題ではない、ということで、これもまた注意を払うべき重要なことです。

今日のメッセージでは、「裁き 」の問題を解決するのに役立つ一つの聖書の教えを示すことで、この問題を単純化したいと思います。

ギリシャ語の新約聖書には、「裁く」を意味する言葉が 2 つある：*krino* クリノ-厳しいものから非難する極端なものまで含みます。- そして、*anakrino* アナクリノ-「評価する」、「評価する 」という意味です。 これは、他者に思いやりを示し、自分自身の健全な心を保ちたいと願う兄弟姉妹の助けになるはずです。 OIC は愛のある場所として知られている。愛は、用心するために妥協される必要がないのです。{将来の水曜夜の聖書勉強会では、「さばく」ことについて、もっと詳しく聖書から教える予定です。}

教会で任命された牧師、教師、宣教師、預言者たちは皆、主イエスが 「わたしの羊を守ったのか？」と問われるとき、主イエスの前に立つことを忘れないでください。そして、忘れてはならないのは、主イエスご自身が(マタイ 7.16)で「あなたがたは、実によって彼らを見分けることができます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわけがないでしょう。」と言われました。

この手紙全体は、使徒ヨハネが真のクリスチャンと偽のクリスチャンを評価するためのいくつかのテストを示しています。 それはまた、自己テストでもありますが、主な目的は、偽キリスト者の可能性をテストすることです。

テスト　その１―服従

(1 ヨハネ 2.3)：「もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。」原語のギリシア語は、この聖句の真意を釈明する、あるいは示すために、より多くのことを引き出している。 (1 ヨハネ 2.3/MOUNCE)：「さて、私たちが神を{γιν ώσκω（ギノースコー）}知っていることを{γιν ώσκω（ギノースコー）}確かめるには、こうすればよいのです：私たちが神の戒めを守るなら。」 このように、ギリシャ語の原文では、文字通りには、こう読むことができます。 この点は、先日私が説教した「祝福された保証」の内容に合致します。　罪人がキリストを受け入れるとき、神が彼にどのような感情を与えることを選んだかに関係なく、彼は、おそらくしばらくしてから、心の奥底で、自分が主と出会い、罪の赦しを受けたことを知るでしょう。 こうして彼は、それまで知らなかったこと、経験したことのないことを知るようになります。

使徒ヨハネは、(1 ヨハネ 2.3)で「知る」というギリシャ語を用いています。「知る」*oida*, オイダは抽象的な学習によって得られる知識、*ginosko* ギノスコは経験によって得られる知識によく使われます。 ヨハネはこの節でギノスコを二度用いていますが、これは単に哲学的事実の対象、あるいは頭の知識というかもしれませんが、としてではなく、人格としての神についての知識を表すためです。

(1 ヨハネ 2.4)：「神を知っていると言いながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにありません。」　　新生したクリスチャンは、主の｛イエスの｝戒めを守りたいという強い願望によって心が変わります。 (1 ヨハネ 1.3)で見たように、イエスと親しく歩みたい、御父や御子イエス・キリストと親密な交わりを持ちたいという願いの結果として、彼らはイエスの御言葉を守るのです。 イエスの戒めを守り続けるうちに、周囲の人々は彼らのライフスタイルの変化を目にします。彼らはつまずき、挫折するかもしれないが、神は彼らの心を見ておられます。 イエスの戒めを守らない偽者や偽クリスチャンの行動は、やがてその人が嘘つきであり、真理がその人のうちにないことを示すでしょう。

テスト　その２：愛？

(1 ヨハネ 2.5-6)：「しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。6 神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。」

ここでの愛とは、神に示すべき愛であって、神からの愛ではないのです。　クリスチャンだと名乗る人の行動を評価したり、試したりしている文脈や周囲の節を見れば、このことは明らかです。 神が彼に対してではなく、この人が神に対してどのように行動するかを評価することが、ヨハネが諸教会に教えているこの人に対する評価です。

この聖句の後半、彼のうちに神の愛は真に完成されたのですが、この 「完成された 」という言葉も誤解されやすいです。 *The Complete Biblical Library* (TCBL) から引用します。「神に対

する人間の愛は、この人生の内では不完全です。しかし、(1 ヨハネ 2.5/ NTG)では、この絶対的な完成ではなく、完成を意味するテテレイオタイという言葉が使われている。 この愛は、愛に満ちた行動の結果として完全なものとなります。最後の節{私たちはこれによって知ります ginosko,私たちは神の内に居る}は、神との交わりを持っていると主張するすべてのテストを繰り返します。ですから、クリスチャンの神への愛は、イエスの戒めを守ることによって示され、評価されるのです。」

*テスト　その３　ライフスタイル*或いは生活習慣　(1 ヨハネ 2.6) :「6 神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。」　クリスチャンは主イエスに似ていなければいけません。 彼らの生き方、すなわち歩みは、主イエスが歩まれたのと同じように、それを示さなければな。　イエスは御父の戒めに完全に従順に歩まれた。ブルース牧師、イエスが御父に従われたように、私もイエスの命令に完璧に従わなければなりませんか？ OIC の聖徒の皆さん、そうではありません！　歩むという言葉は、すでに述べたように、人が示す生き方や習慣的なイメージのことです。 (ローマ 6.14)で言うように：「 というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下にはなく、恵みの下にあるからです。」.　ここ大阪には、素晴らしいレストランがたくさんあり、街中に香ばしい、そして美味しそうな香りが漂っています。 そのようにイエスは、父親である神に従順でした。 (エペソ 5.2)にあるように「また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。」律法の下ではなく、恵みの下にある私たちのイエスに従おうとする心と、その結果としての歩みを、神は望遠鏡や拡大鏡を通して、愛するキリストの内にいる我々を見ておられます。 神は、誠実なクリスチャンの生き方を、いわば芳しい香りとして見ておられる。

(1 ヨハネ 2.7) :「愛する者たち。私はあなたがたに新しい命令を書いているのではありません。むしろ、これはあなたがたが初めから持っていた古い命令です。その古い命令とは、あなたがたがすでに聞いている、みことばのことです。」 古い戒めとは、イエスが 11 人の使徒に与えた「新しい戒め」のことです。 11 人の使徒とは、ユダがイエスを銀貨 30 枚でユダヤ当局に引き渡すために、過越の晩餐会を抜け出したところでした。この新しく斬新な戒めに対する神のタイミングは、この使徒たちに対するイエスの言葉(ヨハネ 13.33)に見られます。 :「子どもたちよ。わたしはいましばらくの間、あなたがたといっしょにいます。あなたがたはわたしを捜すでしょう。そして、『わたしが行く所へは、あなたがたは来ることができない。』とわたしがユダヤ人たちに言ったように、今はあなたがたにも言うのです。」　この最後の晩餐から 4 日以内に、イエスは見捨てられ、裁判にかけられ、殴られ、鞭打たれ、十字架につけられ、葬られ、死者の中からよみがえりました。 イエスは、彼らが皆、心的外傷後ストレス障害 (PTSD) になるか、精神的ショックで無感覚になることを知っていました。 しかしイエスは、肉と骨と血に包まれた最後の言葉を数えてほしかったのです！ そこでイエスは次のように言われました。(ヨハネ 13.34-

35)：「34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。35 もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

ジョンはそこにいました。 彼はそのすべてを見聞きしました。おそらく一部のクリスチャンは、ヨハネが自分たちのキリスト教信仰に何か新しい教義を加えていると思ったのでしょう。 親愛なる聖徒たちよ、彼らは私たちが持っているような聖書を持っていませんでした。教会のあらゆる教義をチェックし、検証するために家に置いておく聖書を持っていませんでした。 そこで、ヨハネは言います (1 ヨハネ 2.7)：「愛する者たち。私はあなたがたに新しい命令を書いているのではありません。むしろ、これはあなたがたが初めから持っていた古い命令です。その古い命令とは、あなたがたがすでに聞いている、みことばのことです。」彼らは聖書を持っていませんでしたが、ヨハネやイエスを知る信頼できる男女から、イエスの物語や福音書を知っていました。 イエスが愛について教えた古い戒めは、それゆえヨハネによる新しい教義ではなかったのです。

次に、ヨハネは非常にゆっくりと、あるいは徐々に、この手紙の「古い戒め」におけるイエスの「オチ」、すなわち「力点」に到達します。(ヨハネ 13.35)：「 もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

(1 ヨハネ 2.8)：「 しかし、私は新しい命令としてあなたがたに書き送ります。これはキリストにおいて真理であり、あなたがたにとっても真理です。なぜなら、やみが消え去り、まことの光がすでに輝いているからです。」

まず、この節の 2 番目のフレーズを見てみよう。 先週述べたように、ヨハネはイエスの福音書とこの第一の手紙をほぼ同時期にエペソで書いています。 ヨハネは、福音書と手紙とを、ある意味で(ヨハネ 1.4-5)と結びつけ、同時に 1 世紀のキリスト教の新しさを教えようとしていたに違いないのです。：「 4 この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。5 光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。」

神の正しい裁きによる完全な破滅から人を救うために父から遣わされたイエスの使命を果たすことを妨げるために、闇（ギリシャ語では道徳的・霊的な闇）がイエスを圧倒することはできませんでした。 これはヨハネの福音書の中にも、真のクリスチャンの心の中にもあります。

(1 ヨハネ 2.8)の最初のフレーズは：「しかし、私は新しい命令としてあなたがたに書き送ります。これはキリストにおいて真理であり、あなたがたにとっても真理です。」： 歴史、特に福音が世界をひっくり返したこと、そしてヨハネが書き送ったクリスチャンたちの体験は、イエスの福音がもたらした世界的かつ個人的な結果を示しています：見捨てられ、試みられ、打ちのめされ、鞭打たれ、十字架につけられ、葬られ、死者の中からよみがえり.....そして最後になりましたが、神はすべてのクリスチャンに聖霊をお与えになりました：小さな者も大きな者も、富め

る者も貧しい者も、ユダヤ人も異邦人も、男性も女性も！クリスチャンが持っているこの神からの愛は決して古びることはなく、それゆえ、神の中にもあなたの中にも真実なのである。

私は（TCBL）のこの言葉が好きです：「キリストの死が 「愛 」という言葉に新しい意味を与えたからです。キリストの死が 「愛 」という言葉に新しい意味を与えたからである。そして、それは、クリスチャンにとって、自分たちの生活の中で経験することで、新しいものになりました。」

テスト　その４　あなたの兄弟を愛するのか、嫌うのか

次に、ヨハネは(1 ヨハネ 2.9) で、偽者や偽物かもしれないクリスチャンの鑑定に戻ります：「光の中にいると言いながら、兄弟を憎んでいる者は、今もなお、やみの中にいるのです。」

私が何年も前に教えられたように、「愛は私たちがするものです！」。 ここでもまた、ヨハネの福音書とヨハネの手紙に類似性を見ます。(John 3.19)：「19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。」

神は私たちを神のかたちに創造されました。 神には感情があり、私たちにもあります。 クリスチャンは特に、救い主と共に互いのことを、救い主の御父に対して罪人や苦しんでいる人々のことを感じることができます。 しかし、「愛は私たちがするものです！」。 感情としての愛は 50 年続くかもしれないし、5 分かもしれないのです。しかし、私たちには愛である素晴らしい先生がいます。 それで、クリスチャンは (1 ヨハネ 2.9)：「 光の中にいると言いながら、兄弟を憎んでいる者は、今もなお、やみの中にいるのです。」　愛は私たちがするものだ！」とすれば、「憎しみは私たちがするものだ！」とも言える。あるいは、多くの場合、行動をおこしていない事でもあります。 だから、光の中を歩いているように見せても、兄弟を愛する行為がなければ何の意味もない。それで今なお、彼の兄弟は今まで暗闇の中にいる、あるいは暗闇を実践しているのです。

(1 ヨハネ 2.10)：「兄弟を愛する者は、光の中にとどまり、つまずくことがありません。」ヨハネはここで、真のクリスチャンが兄弟を愛する「秘訣」は、光の中にとどまることだと教えています。 アバイド（とどまる）とは、 (1 ヨハネ 1.3) で見たように、親しい交わりのことです。：「私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。」　これは神との親密な個人的関係です。 イエスはまた、この 「abide 」という言葉を、『ぶどうの木』の教えの中で使っています。(ヨハネ 15.5)：「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」

クリスチャンになったばかりのあなたが、イエスが「わたしから離れては、あなたがたは何もできない。」と言われる時、神はあなたの生まれつきの才能を捨てるのだと感じるかもしれません。そして イエスは、私に、神と共に宗教的な仕事だけをしなさいといっておられるのだろうか？
いいえ、違います。 5 世紀、聖アウグスティヌスとしても知られるヒッポのアウグスティヌスが、将来の教会指導者たちにキリスト教の信仰に科学を認める道を開いた。 当時の教会はローマ・カトリック教会だけであった。 今日、プロテスタントの神学校で使われているアウグスティヌスの神学書は、彼が約 1,000 年後のプロテスタント宗教改革に賛同したことを示している。 アウグスティヌスの個人的な 「イエスと共に歩むことは愛に歩むこと 」というライフスタイルが、彼の伝統的でない神学的な考えを受け入れるきっかけとなりました。 他のキリスト教指導者たちを挑発した彼の有名な言葉のひとつがあります： 「すべての真理は神の真理である」。 これによってクリスチャンは、自然の中で明らかにされた研究や発見に才能を発揮する自由を得ました。 近代科学知識の飛躍的進歩の多くは、この自由の影響を受けたクリスチャンによってもたらされました。
その一例が 16 世紀のヨハネス・ケプラーです。 私が彼の天才ぶりを知ったのは、ある大手調査会社のコンサルタントとして、アメリカ航空宇宙局（NASA）の問題を解決していたときでした。私は罪人で、この世にも来世にも希望がありませんでした。 しかし、クリスチャンになってからは、家庭で子供を教えている妻が 6～7 年生の息子を家庭教師として育ててくれました。 私は夜、時間を見つけては科学を教えました。 私は NASA での仕事から、ケプラーの法則によって惑星の公転運動を正確に計算できることを知っていました。これがなかったら、宇宙旅行はまったくなかったでしょう！ それから息子にクリスチャンの科学者の本（ヨハネス・ケプラー、種まく人シリーズ、科学における信仰の巨人）を教えながら、ロケット科学に携わっていた頃の私の昔のヒーロー、ケプラーを見つけました。 クリスチャンが神の創造の中に答えを見出す自由を息子と分かち合えるとは、何という喜びでしょう。 『Giants of Faith in Science』より：「ケプラーはしばしば自分の発見に興奮し、科学雑誌に発見を記録するとともに、神への賛美の歌を書いた！ 歴史上、ヨハネス・ケプラーのような人物は他にいない。」
ケプラーは、「（自然の）法則は人間の頭で理解できるものである：神は、私たちがご自身の思いを共有できるように、ご自身のかたちに似せて私たちを創造することによって、私たちにそれらを認識させようとされたのです」と言いました。彼は、詩篇 19：1 に鼓舞されたようです：
「天は神の栄光を語り告げ、大空は御手のわざを告げ知らせる。」
ケプラーはアウグスティヌスと同じように、イエスの栄光に満ちた助けによって、光の中を歩みながら科学の仕事をしていた。 **（ヨハネ 15.5）**「あなたがたは、わたしを離れては何もできません」と主が言われたとおりです！ 本当に、私たちがイエスとともにとどまっているとき、私たちは光の中を歩いているのです。 **｛親愛なる OIC の聖徒の皆さん、説教の中で私が個人的に行った小旅行についてフィードバックをください。 これは、国際的な聖徒たちとともに文化の壁を越え**

るための最良の方法だと思います。私たちは皆、ヨハネの手紙が教えているように、私たちの家族や友人が私たちの主イエスを知り、生きてほしいという深い願いを共有しているからです。}

（1 ヨハネ 2.10）：「兄弟を愛する者は、光の中にとどまり、つまずくことがありません。」

ブルース牧師、もし私が兄弟を愛しているなら｛もちろん姉妹も｝、私は決して罪を犯さないのでしょうかと、あなたはたずねるかもしれません。聖書に書かれていないことを約束することはできません。 しかしヨハネは、兄弟を愛することは、あなたが光の中を歩むことになると言いました。 この霊的な光、イエスの親密さは、私たちが旅している霊的な道の多くの危険に目を開かせてくれます。 兄弟を愛するという真剣な決意が、栄光への歩みにつまずきをもたらす多くの誘惑を防ぐと私は信じています。

さて、コインの反対側、つまりスピリチュアルなフェンスの反対側です。 **（1 ヨハネ 2.11）：**「兄弟を憎む者は、やみの中におり、やみの中を歩んでいるのであって、自分がどこへ行くのか知らないのです。やみが彼の目を見えなくしたからです。」ヨハネは、視力や視覚のある人なら誰でも経験したことのある単純な比較をしています。特に、街角にオイルランプさえなかった1世紀には。 イエスの光がなければ、あなたは兄弟を憎みます。 というのは、あなたは霊的にどこへ行くのかが見ないからです。あなたは、暗闇のために目が見えず、自分の歩みが邪悪であることを見ることができないからです。

ヨハネは再び、イエスがブドウの木であるち、その枝であるクリスチャンについて教えたことを思い出しました。そこで、**（ヨハネ 15.6）：**「だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。」**イエスとともに光の中を歩まないことは、イエスに留まらないことと同じであり、彼らを地獄で滅びる火の中に投げ込むことにつながります。**

聖書ではしばしば、「良い」知らせの前に「悪い」知らせがあります。 ヨハネは、試練の幼子たちにイエスとの歩みを評価するよう警告した後、特に偽者の可能性に焦点を当て、彼らに「祝福された保証」を与えるために神の愛を注ぎます。

クリスチャンであることの確信

（1 ヨハネ 2.12/MOUNCE）：「幼な子たちよ、あなたがたに手紙を書いているのは、あなたがたの罪がその名のゆえに赦されたからである。」 使徒ヨハネは、この手紙を書いたとき、現存する唯一の使徒であった可能性が非常に高いです。 彼は、すべての教会のすべての信者に対する父親のような愛と、イエスとともに生き、イエスの奇跡、十字架刑、埋葬、復活体、天国への昇天を見た経験的権威を強調するために、「幼な子たち」という愛情を込めた言葉を使っています。 ヨハネはその意味で、すべての教会にとっての霊的な父親でした。 もし、全教会の父であるヨハネが、イエスの名のゆえに、あなたがたの罪は赦されたと言うなら、すべての信者はその単純な励ましを受け入れるでしょう。

ヨハネは、神の言葉を詩的な形で表現するために、三連符と呼ばれる文語体を使っています。 私は、ヨハネが原語のギリシア語にのみ見られる文学的装置を用いたので、ギリシア語新約聖書（MOUNCE）に切り替えてみました。

(1 ヨハネ 2.13-14/MOUNCE)：「13 父たちよ、あなたがたに書いているのは、あなたがたは初めからおられる方を知っているからである。若者たちよ、あなたがたに書いているのは、あなたがたは悪に打ち勝ったからである。 父たちよ、あなたがたに書いているのは、あなたがたが初めからおられる方を知っているからである。若者たちよ、あなたがたに書いているのは、あなたがたが悪に打ち勝ったからである。14 わたしの子たちよ、あなたがたに手紙を書いているのは、あなたがたが父を知っているからである。父たちよ、あなたがたに書いたのは、あなたがたは初めからおられる方を知っているからである。なぜなら、あなたがたは強く、神のことばがあなたがたのうちにとどまり、悪に打ち勝ったからである。」

ヨハネによる福音書第 1 章 2 節の上記の箇所では、ヨハネは特定の、あるいは異なる年齢層の人々を取り上げて、彼らの信仰を励ますために書いている。彼は三連符と呼ばれる詩的構造を用いている： つまり 1)子供たち、2)父親たち、そして、3)若者たち。

・ 子供たち、すべてのクリスチャンたち、（12 節）、私があなたがたに手紙を書いているのは、あなたがたの罪が主の御名のゆえに赦されたからです。全教会の父である彼が、主の御名のゆえにあなたがたの罪は赦されると言うのなら、すべての信者はその励ましを受け止めようと思うだろう。

・ 父祖とは成熟したクリスチャンのことである。（13 節）私があなたがたに手紙を書いているのは、あなたがたは、初めからおられる方を知っているからです。初めからおられる方とは、ヨハネが福音書（ヨハネ 1.1/NTG ）に書いているように、イエスのことである。ヨハネの福音書から**(ヨハネ 1.1/NTG)** ：「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」

・ 若者とは、その文化圏では通常 25 歳から 40 歳の男性のことである。 13 節）私があなたがたに手紙を書いているのは、若者たちよ、あなたがたは悪に打ち勝ったからである。 また、JB フィリップス訳では（1 ヨハネ 2.13/JBP） ： あなたがたのような元気な若者たちに、わたしが手紙を書いているのは、あなたがたは悪に打ち勝ち、強くなったからである。 このように、使徒ヨハネはパウロと同じ聖霊に導かれて、使徒パウロが**(ローマ 8.37)**でそうしたように、これらのクリスチャンを励ましていたのである。：「しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。」ヨハネはこの三連符を繰り返すのだが、ギリシャ語の aorist アオリスト時制では、「書いている（現在進行形）」ではなく「書いて来た（現在完了形）」です。ギリシャ語で申し訳ない。 主は栄光の目的のために、世界のすべての支配者と王国に対して、ひとつを立て、もうひとつを置かれます。 神はギリシャの将軍 「アレキサンダー大王 」に文明世界のほとんどを征服させ、新約聖書が最も

複雑でありながら明確で正確な言語、1 世紀のギリシャ語で書かれるようにされました。だから、ここでヨハネの目的を無視してはなりません。 (1 ヨハネ 2.14)にあるように、これは前の節の写真コピーのように見えます：「小さい者たちよ。私があなたがたに**書いて来た**のは、あなたがたが御父を知ったからです。父たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが強い者であり、神のみことばが、あなたがたのうちにとどまり、そして、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。」

・　*私の子供達よ、私はあなただがたに**書いて来た。**なぜなら、あなたがたは父をしっているからだ。*

・　*父たちよ、私があなたたちに手紙を書いて来たのは、あなたたちが初めからおられる方を知っているからである。*

・　*私があなたがたに手紙を書いたのは、あなたがたは強いからであり、神の言葉があなたがたのうちにとどまっているからであり、あなたがたは悪に打ち勝ったからである。*　これには、若者たちの内に神の言葉が宿っているという励ましも加わっている。 ヨハネの手紙第一のキーワードである 「Abiding」、つまり、光であるイエスとともに 「歩み」、イエスとともに 「とどまる 」ことである。

しかし何故? 大阪は多言語を話す人が多いので、それぞれの言語、特に日本語特有の微妙なところがあります。 さて、1 世紀のギリシャ語話者にとって、ヨハネのしたことは微妙なことではなかったのです。　**キリストにある彼らのアイデンティティに対する励ましをこの文法構造に置き、動詞の時制を変えることで、より力強さというか強さを持ちます。 「私は書いている」→「私は書いて来た: 「キリストにある彼らのアイデンティティに対する励ましを、この文法構造にして動詞の時制を変えることで、より力強さが増します。ヨハネの手紙 (1 ヨハネ 2.12-13)は現在進行形の「私は書いています」、そして (1 ヨハネ 2.14)は突然 「私は書いて来た」の** aorist 時制に変化させています。***私は書いて来た。*** **このアオリスト動詞の時制は、1 世紀のギリシア語特有のもので、過去に始まった活動が未来に続いていることを表します。 ヨハネはこの文法構造において、永遠を踏まえて語っているのであり、現在から始まり、未来の時点から... 言うなれば永遠から振り返っているのです。言い換えれば、キリストにあるあなたのアイデンティティは、「今」保証され、「将来も」保証されます。キリストにあるあなたのアイデンティティは、永遠に保証されます。**

ヨハネがこの手紙の中で書いているように、私たちクリスチャンは、キリストのうちに、永遠に続くアイデンティティを持っています。 私たちは、時が始まる前からおられる救い主イエスの古さと、神の永遠の裁きから私たちを救ってくださったイエスの十字架、イエスの血の新しさをもって、毎日を始めることができるのです。 そう、神は御子の血潮が私たちクリスチャンを清め、癒すためにいつでも利用できると見ておられるのです。 私たちの感情が高かろうが低かろうが、

イエスの血は毎日私たちに届きます。 私たちは毎日、罪と霊的な死から解放されます。 私はよく、古い賛美歌の歌詞でこのことを思い出す： 「カルバリーでイエスが私のために流してくださった血は、私に日々力を与えてくださる。 最も高い山にも届き、最も低い谷にも流れる血は、日々私に力を与えてくれる。 」アーメン。

祈りましょう…

参考文献

JBP - J.B. Phillips New Testament in Modern English by J.B Phillips copyright © 1960, 1972 J. B. Phillips. Administered by The Archbishops' Council of the Church of England. Used by Permission

NASB1995 - New American Standard Bible®, Copyright © 1960, 1971, 1977, 1995 by The Lockman Foundation. All rights reserved.

NTG - Novum Testamentum Graece/ Nestle-Aland, Printed in Germany 1898 & 1979

TCBL - *The Complete Biblical Library,* The New Testament Study Bible, Empowered Life Academic, Tulsa, Oklahoma 74145 USA

Giants of Faith in Science - the Sower Series by John Hudson Tiner, Mott Media, LLC / 1977 / Paperback